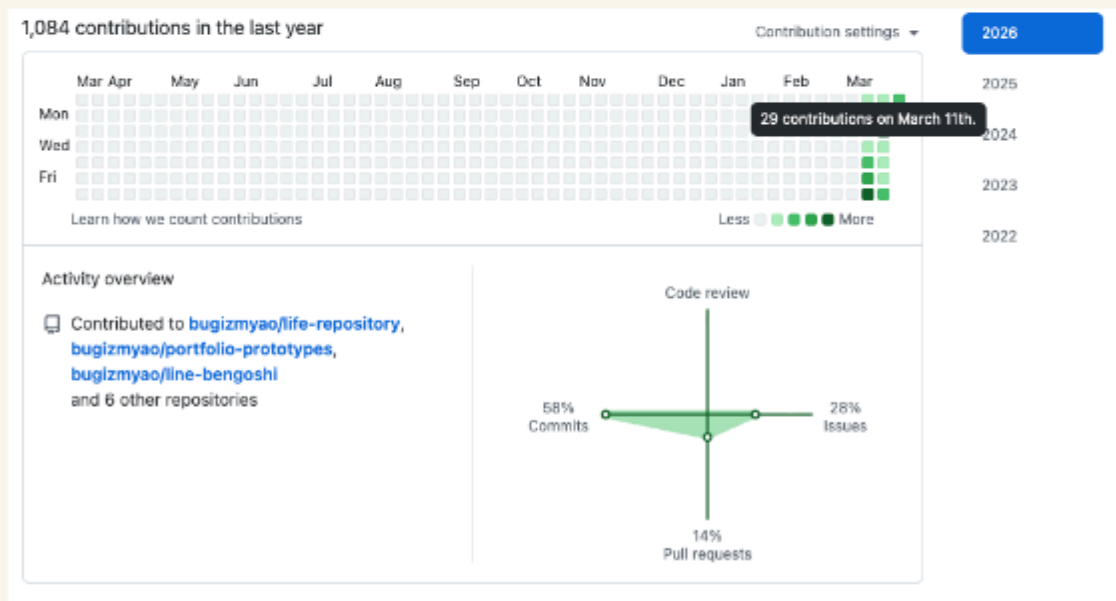


# 一人でできる AI 時代のサービス開発

～非エンジニアの AI リテラシーを上げる～

## 2週間前に AI を使い始めました

- SES エンジニア（普段はフルリモートでコーディング）
- 2週間前に Claude Code を触り始めて、どっぷり
- **気づいたら、一つのシステムを開発していた**



# 今日お伝えしたいこと

1. 遊んでたらサービス開発になっていた
2. AI の現在と今後
3. エンジニアも非エンジニアも、作ってみましょう

# 1. 遊んでたらサービス開発になっていた

AI で遊んでいるうちにスキルが溜まっていた

→ **友達の課題を解決できるのでは？**

日曜の昼、友達を家に呼び出しました

## ヒアリングしたら憤りを覚えた

友達の AI 活用状況を聞いてみると…

→ **もったいない使い方**をしていた

- 説教しました
- そのまま**ワークフロー**を全て洗い出し
- 業務効率化できそうなポイントを特定

## でも、セキュリティリスクで断念

業務データを AI に渡すのは**リスクがある**

…と思ったところで気づいた

「あ、HP の公開情報だけ使えば

LINE 公式アカウント構築ツール作って渡せばよくない？」

## 一人で作って、翌日にはこうなりました



- HPのブランドカラーを自動抽出
- リッチメニューをAIが毎回デザイン生成
- このツールで業務成果を上げ始めた

## 2. AIの現在と今後 — トレンド

- AI を使ってなんでも自動化
- たくさんの AI ツール・サービスが出てくる
- 「一人で作った」が珍しくなくなっている

## 2. AIの現在と今後 — 課題

- 最新機能がたくさん出てきてトレンドに追いつくのでやっとな
- 自称 AI コンサルが胡散臭くてキモい
- 企業内の AI 推進が浸透しない

## 今後と差別化の壁

AI サービスは**少数に集約**されていくのでは（私見）

そうなったとき——

- コンサルは淘汰される
- 「AI に詳しい」だけでは差別化にならない
- **AI でアウトプットの質を上げるのは、誰にでもできるようになる**

では、何で差をつけるのか？

# 非エンジニアこそ持っている「余白」

## AI の学習データは結局みんな同じ

→ エンジニアが作ると、似たようなものができがち

## でも、非エンジニアはシステム開発の制約に縛られない

→ 技術の常識を知らないからこそ、柔軟な発想ができる

- わざと不便な UX を入れる（常識外だけど、それが差別化）
- 業務現場の肌感覚で「本当に欲しいもの」を作れる
- **効率だけを追うと、みんな同じになる。余白こそが価値。**

### 3. エンジニアも非エンジニアも、作ってみましょう

- リテラシーの差はまだある — **でも、関係ありません**
- AI を積極的に触ってください
- **自分の課題を AI と一緒に解決してみてください**

｜ **エンジニアでなくても、一人でサービスが作れる時代です**

# まとめ

**遊んでたら開発になっていた** → AI は最高の相棒  
**非エンジニアこそ強い** → 制約がない分、余白がある  
**とりあえず** → 今日から作ってみよう

ありがとうございました

## 参考資料



**GitHubで人生を管理する** (hand-dot 氏)

[zenn.dev/hand\\_dot/articles/85c9640b7dcc66](https://zenn.dev/hand_dot/articles/85c9640b7dcc66) — [github.com/hand-dot](https://github.com/hand-dot)



**CC-Company — Claude Code で仮想組織を作る** (Shin-sibainu 氏)

[youtube.com/watch?v=cfoE\\_8Llde0](https://youtube.com/watch?v=cfoE_8Llde0) — [github.com/Shin-sibainu](https://github.com/Shin-sibainu)

僕自身、AI でナレッジを蓄積し、会社エージェントを構築して  
ワークフローを効率化したからこそ、このスピード感で開発できました。